

今年度の校内研究について

R6. 6. 10

研究部

課題：表現力・・・自分の考えを文章で表したり、言葉で説明したりする力が弱い

学校経営構想より

めざす子ども像

(1) 本気で勉強する子ども

学びを支える言葉の力や理解する力を育成する【学力向上】

- 基礎的基本的な知識や技能の定着に向けた取り組みの充実を図る
- 自分の考えを自分の言葉で表現する力を伸ばす取組の充実を図る

《今年度の校内研究》

1 研究主題（3年計画）

「自らの考えをもち、伝え合い、ともに学び合う子どもの育成（2年次）」

2 めざす子ども像

- ・発問や課題に対しての自分の考えや思いをもつことができる。
- ・自分の言葉で、自分の考えや思いを表現することができる。
- ・根拠をもとに考え（明らかにして）、伝え合うことができる。
- ・学びの中で生まれた考えを、対話を通して、確かめたり深めたりすることができる。

3 研究目標

「自らの考えをもち、伝え合い、ともに学び合う子どもの育成」を図るための効果的な指導方法を、学びを支える言葉の力をつけることを中心とした授業実践によって明らかにしていく。

4 研究仮説

児童が自らの課題意識をもち、自分の考えをもつことができれば、すすんで表現する児童を育成することができるであろう。

5 研究の内容と方法

研究主題に迫るため、【主体的な課題とのかかわり】【友だちとのかかわり】という2つの視点で、具体的な手立てを講じながら学習を実践していく。

(1) 研究の視点

視点① 主体的な課題とのかかわり ～主体的な学び～

「なぜ?」「どうして?」「調べてみたい」「やってみたい」「〇〇を考えたい」といった思いや願いを大切にしたい課題づくりをし、児童が自らの課題意識をもち、進んで課題を追究できるように

○児童が「問い」をもつ課題の設定

- ・児童が興味・関心をもつことができる教材（教具等）の提示
- ・生活の身近なこと、地域の教育資源（ひと・もの・こと）を効果的に活用

○課題を追究し、自分の考えを表現する活動を設定

- ・自分の思いや考えを書く活動の設定
- ・自分の考えや他者の考えを説明する活動の設定
(順序を考えて・理由をつけて・大事な言葉を使って説明)
- ・モデルを示す
- ・ワークシートの活用

視点② 友だちとのかかわり ～対話的な学び～

友だちと一緒に活動したり話し合ったりする中で、お互いのよさを生かし認め合いながらよりよいものを見つけるなど、友だちと協同して行う学び方を身につけることができるように

○他者と協力して課題を解決する学習活動

- ・ペアやグループ活動により、お互いの思いや考えの意見を聞いたり話したりする活動
- ・説明をするときの言葉の使い方
- ・互いの意見を分類・整理・構造化するための教材・教具・学習ツールの工夫

1年次

◎ 「自らの考えをもつ」ことを重点的に（視点①）

【低学年部】

☆成果

○ワークシートの工夫

- ・例を提示
- ・ねらいを達成させるための手がかり

○電子黒板の有効的な活用

- ・子どもが書いたワークシートをうつして、みんなで共有

○導入場面における工夫

- ・本時に扱う価値への方向づけ→実際のクラスで見られた場面
- ・生活場面に基づいた導入

○板書の工夫

- ・相関図の形式で板書計画

○初発と終末の発問

- ・初発で示した発問を終末で再度提示→本時のねらいにせまる

○ペア学習

- ・ワークシートを書いた後、ペアでの伝え合い→お互いに気づき合いが見られた
- ・全体での発表の前にペアでの伝え合い→考えが表現しにくい子にとって表現することの抵抗感をなくす

○友だちの話をよく聞いて学ぶことのよさや大切さ

- ・話型の提示

☆課題

○取り上げた題材について

- ・家庭環境の違いによるむずかしさ

○適切な問い返し

- ・児童の言葉をうまく取り上げる
- ・児童の反応をあらかじめ予想→それに対する問い返し
- ・本時のねらう価値に迫っていけるように
- ・多角的に教材分析を行うことの重要性

○思いを表現することが苦手な児童への対応

- ・自分の思いや考えが書けない子への対応

○話型に縛られず、自分の考えや思いを自分の思いを自分の言葉で表現するには

【中・高学年部】

☆成果

- ・書く・操作する・音を出してみる・ポジショニングなど、まずはやってみることで自分の考えをもつことができた。
- ・主体的に学ぶためにめあてに必要性をもたせることが大切。
「比較する」めあては、有効であった。
- ・単元で流れをパターン化すると見通しがもちやすく、主体的な学習になりやすい。
- ・考えをもたせるために、資料の精選が大切。課題をもてる資料の提示をする。

☆課題

- ・表現力がついた子どもの具体的な姿が共有できるようになるとよい。(来年度に向けて)

【特別支援学級部】

☆成果

- ・授業の流れを視覚的に提示したり、毎回同じ流れで授業を行ったりすることで、児童が見通しをもって授業に参加することができ、主体的な学びにつながった。
- ・生活と結び付けて課題を提示したり、喜んで取り組むことができる課題を児童の実態から用意したりしたことによって、主体的に課題と関わろうとする様子が見られた。

☆課題

- ・児童が興味・関心をもつことができる教材の提示が大切だとは思いますが、すべての子どもにとって共通して興味・関心のある題材を見つけることは難しい。中でも、子ども自身が折り合いをつけたり、「できた」と感じられるよう教材を工夫したり、環境を設定したりしていきたい。

2年次

もう一度、子どもの実態から、めざす子どもの姿を考えていきたい。

① 表現力に関わる子どもの実態は？

強みは？ 弱みは？

具体的に・・・

② 学年ごとに、表現力のついた子どもの具体的な姿とは？

③ そのための手立ては？

※ 上記の①～③について、次回の研究職員会議で各部に分かれて話し合う。

研究職員会議（6月1日）

○各学年部による話し合いより

【下学年部】

★表現力に関わる子どもの実態

（強み）

- ・発表したがる。
- ・内容にもよるが、意欲的である。

（弱み）

- ・単語だけで、文になっていない。
- ・言葉の使い分けができない。
- ・式は言えても、なぜその式になるのか、わけが言えない。説明ができない。
- ・説明の仕方が分からない。
- ・算数用語を使った説明ができない。
- ・口で言えても、書けない。
- ・図に表すことができても、説明ができない。
- ・根拠を示しながら、順序立てた説明ができない。

★表現力がついた子どもの姿とは？

- ・単語ではなく、文章できちんと話ができる。
- ・大まかに順序を考えて話すことができる。
- ・理由をつけて、話すことができる。
- ・自分の考えをもち、進んで表現することができる。
- ・相手に伝わるように、事柄の順序を考えて話す。
- ・相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら、話の中心が明確になるように話す。表現する。

★そのための手立ては？

- ・話したくなる課題の設定・出会わせ方
 - ・話型の提示
 - ・モデルを示す
- (説明の仕方・押さえる言葉・つなぐ言葉・順序を表す言葉)
- ・聞き手を育てる(間違えても大丈夫、受け入れる)

【上学年部】

★表現力に関わる子どもの実態

(強み)

- ・週末の日記が、はじめ・中・おわりでしっかり書いている。
- ・3行日記に、自分の言葉で書く。
- ・覚えたことをみんなの前で話す。

(弱み)

- ・短い文章、長い文章で書く子がいる。
- ・条件を満たしながら考えを書けない。
- ・文章が書けない子がいる。
- ・自信がないから、発表ができない。
- ・個人思考をすぐあきらめて人に聞く。
- ・話を聞いていない。

★表現力がついた子どもの姿とは？

- ・スピーチ(⇔質問)ができる。
- ・振り返りがきちんとできる。「今日分からなかったこと」が書ける。
- ・ある言葉を使って、文づくりができる。
- ・国語辞典を使って文章を書く。

★そのための手立ては？

- ・全員同じテーマで書く練習をする。
- ・1行目(今日会ったこと)、2行目(感想)、3行目(次への考え)等、決めておく。
- ・接続語を正しく使う。
- ・NGワードを決める。
- ・スピーチを各学年に分けて行う。
- ・理由を話す。
- ・話す⇔聞く がリンクしているようにする。
- ・Aに言わせる→途中で止める→A以外に続きを言わせる(〇〇じゃないかな?と思う)
- ・意見を全員でいう。
- ・ペアで話し合う。
- ・行事等の感想に、条件を付けて書かせる。

【特別支援部】

★表現力に関わる子どもの実態

(強み)

- ・字を書くことは抵抗があるが、絵で書いて表現ができる。絵を介して話を伝えたり、気持ちを伝えたりすることができる。
- ・書きにこだわるのではなく、得意なことを生かした支援（読み上げや、視覚的に表示するなど）をすることで、学習に取り組むことができる。
- ・自分の好きな分野については、話ができる。

(弱み)

- ・自分の気持ちを言葉にして伝えることができにくい。
- ・読み書きが苦手。
- ・語彙が少ない。

★表現力がついた子どもの姿とは？

- ・自分の気持ちを言葉にして伝えることができる。
- ・相手の話を聞く（受け入れる）ことができる。

★そのための手だては？

- ・考えさせて言わせるのではなく、選択肢をもたせる。
- ・相手や状況に応じた言葉の使い方について、こどもの発達段階に応じて教えていく。
- ・学校生活全般を通して、こどもとの関わりの中で、子どもから発せられた言葉の意味を深めたり、広げたりする。読書、教科の学習の中で言葉の意味を確かめたり、イメージしたりするようにする。
- ・子どもたちが安心できる人間関係作りをする。
- ・聞き方のルール作り、聞く態度を育てる。

☆話し合いを受けて、今年度の重点☆

<めざす子どもの姿>

自分の言葉で、自分の考えや思いを表現することができる。

(研究の内容)

◎課題を追究し、自分の考えを表現する活動を設定（視点①より）

○自分の思いや考えを書く活動の設定

- ・ワークシートの工夫
- ・ねらいを明確にした書く活動

○自分の考えや他者の考えを説明する活動の設定

- ・説明の仕方のモデルの提示
- ・順序を考えて・理由をつけて・大事な言葉を使った説明

◎相手の思いや考えを分かろうとして聞く態度を育てる

○共通した「聞き方のルール作り」(夏休みに話し合い)

- ・人の話を最後まで聞く
- ・自分の考えと比べながら聞く
- ・分からないことは質問をする

(検証方法)

◎表現力のついた具体的な子どもの姿をあらかじめ設定し、検証を行う。

(2) その他の取組

★学びを支えることばの力を育む取組

○校内研究に絡めて、学びタイムで「自分(のことば)で考え行動できる子ども」を目指し、語彙を増やす。「ことばの育成プログラム」

- ①各担任で実践しながら、プログラム表にメモや記録を残す。
- ②学年部で随時、情報交換を行う。
- ③研究職員会議等で、実践発表(ミニ研修)を行う。
- ④1年間でプログラム表を更新する。

R6 → 研究部 → 学びタイム・プログラム → R6 → 雑賀小プログラム(更新用)

★漢字・計算大会について

- *今年度も引き続き、毎月(25日)行う。
- *結果を表に記入し、活用する。活用の仕方は、各学年部に任せる。
- *児童の実態に合わせて、保護者のサイン欄・コメント欄などを設けて活用する。
※記録表の見本は、「令和5年度→研究部→校内研究」の中に、データあり

★学習に向かう姿勢づくり

○校内で確認している「学習の構え」を徹底させていく。今年度も、「筆箱の中身」を重点的に

○何を学ばせるのかを明確にした授業づくりを進める。(雑賀小スタンダードの活用)

- ⇒ ・めあてをはっきりとさせ、子どもが何を学ぶのかが分かるようにする。
- ・ふりかえりの際にめざす子どもの姿をはっきりさせて、授業づくりを行う。

○今月の詩の設定

- ・各学級で、朝の会・授業等で取り組む。

★家庭学習の習慣

○まずは、やるべきことをやってくる。

○自学の奨励

(3) 研究の方法

- ・全員1つ研究授業を行う。(初任研の見学研と合わせてもよい。)
- ・指導案A41枚に集約する。
- ・組織 下学年部・・・小銀・柳浦・高久・津森・(廣江)・(中島)・(丸山)
上学年部・・・石倉・内田・井上・山本・(田村)・(水内)

特別支援学級部・田村・水内・中島・丸山・廣江

※ 特別支援学級の研究授業には、該当する交流学級の担任もできるだけ参加する。

※ 交流学級の研究授業には、該当する特別支援学級部の担任もできるだけ参加する。

・授業研究会の持ち方

※ 校内全体で行う授業研究会と各グループで行う授業研究会に分ける。

※ 訪問指導を伴う研究授業は3つ。

① 初任者研修に係る訪問指導 2の2：算数 11月20日（水）

② 教職経験2年目フォローアップ研修訪問指導 3の1：算数 9月 中旬

③ 学校人権教育訪問指導 6の1：社会 12月2日（月）

※ 訪問指導を伴う研究授業の指導案審議は、各部+関係者で行う。

全員参加・・・① ③

※ 所属グループの研究授業は必ず参観し、研究協議に出席。都合がつけば、他のグループの研究授業に参観する。

※ 授業に参加した場合は、参観シートを記入して、授業者・研究主任に渡す。→ 研究に生かす

・指導案 A4版 1枚 略案（訪問指導を伴う研究授業は密案）

※ 上記の研究の視点の①～③から視点を選び、その視点での工夫を行う。

※ 余白は、上下左右2cmあける。

【指導案（略案）の様式】

第○学年○組 ○○科学習指導案

令和○年○月○日（○）○校時

場 所

指導者

1. 単元名

2. 単元の目標

3. 本時の学習（本時 / 時）

（1）目標

（2）展開

学 習 活 動	教師の支援（○）と評価（◆）